

平成30年度私立短期大学就職担当者研修会におけるグループ討議の報告

<初任者グループ> (17名)

担当：北川 裕樹 委員

1. 分科会の運営目標

初任者向けに就職活動、進路支援のあり方をわかりやすく説明し、討議する。

基本的な事項やスケジュール等を情報共有し、現状把握をしながら専門職や一般企業への就職活動での留意すべき事項や指導方法を討議する。

2. 分科会討議項目・進め方、事前アンケート結果

今回分科会は二日目の午後からの半日と短時間であったため、全員が参加し意見を出し合う意味もあり、共通テーマを事前アンケートから選択し、グループ討議を主に実施した。全員を三グループに分け、各グループ三項目について討議し討議内容を発表した。

- (1) キャリア教育および就職支援の充実策
- (2) 就職活動における教職員および採用側との連携
- (3) やる気の醸成 ー働くことへの意識・意欲を持ってない学生に対する指導ー
- (4) 基礎学力向上への取り組み
- (5) コミュニケーション能力涵養のための方策
- (6) その他

①就職活動による公欠の取扱い、特に活動が長期にわたる場合などの対応

- ・公欠：5校（一部回数に条件あり3回）
- ・欠席：9校

②連絡のとれない学生への通信手段および徹底方法

- ・メール・LINE
- ・事前登録の携帯電話
- ・友人への連絡依頼
- ・ゼミ担・担任からの声掛け
- ・HP（ポータルサイト）や掲示板・最終、自宅（保護者）連絡

③各種証明書の様式、発行方法

- ・自動発行：4校
- ・性別記載：有り4校 無し4校
- ・封入：有り6校 無し3校
- ・提出先確認：有り9校 無し1校

(*一部回答に未回答、重複回答あり、また一短期大学で複数名の参加があり、一名分のみ記載)

※その他の①②③は事前アンケートでの集計結果を知らせる程度となり、情報交換希望の項目については個人的な意見を口頭で述べ時間切れとなった。

3. 分科会での討議内容

- (1) キャリアセンターが入室しにくい雰囲気があるため、改善が求められる
- (2) 一年生の2月・3月に個人面談を実施、面談シートの記入を原則とし全員出席とする
- (3) 卒業生調査を毎年実施、早期離職者や問題のある企業等が確認できる
- (4) ガイダンス等に出席しない学生には教員との連携が必要。また編入学生が多い短大は編入学生の動向に左右され易く働く意欲が薄れる可能性が高くなる
- (5) 新聞購読、ニュースを見るよう指導し、面談では最近のニュース内容を確認する
- (6) 専門職を目指す学生は資格を取得し就職する意欲がある。同様に卒業までに資格取得の目標を設定するよう指導する
- (7) 最近の学生は基礎学力がないまま入学する傾向がある。AO入試の弊害で義務教育からのしわ寄せが短大まで影響している
- (8) コミュニケーション能力は低下している。
質問では「はい」「いいえ」としかの回答しかないので、文章で回答する質問を投げかけたり、接客のアルバイトを勧めたりする

4. 分科会の成果と課題（やり残したこと）

グループ討議時間が例年より短時間であったため、一部参加者は確認したい項目が確認できず、消化不良の状態であった。

また、事前アンケートで情報交換希望事項については、八短大から要望があったが、全員での討議ができずほとんどの項目について私からの回答となったことが残念であった。

5. 分科会の運営を通して感じた事

昨年に引き続き初任者グループを担当したが、転職し就職担当が初めてまたは他部署から異動で着任し初任者グループに参加したという参加者が多く、事前に準備していた新任者用資料等の活用が難しかった。

同時に年齢層が多岐にわたっており、グループ分け後の討議にも一部支障があったようだ。

6. 研修会全体

研修会の目的である学生が社会人になるための事前準備支援や就職活動への指導方法の周知ができたのかの疑問は残るものの、概ね想定していた通りであった。

今回、学校をお借りして研修会を実施し、また講演料等もカットした中で、企画した講演等の研修会参加者からの評価は高かったと感じた。

7. 研修会全体の成果と課題

初任者グループの意見は参加回数も少ないこともあり好評であったが、カテゴリー別研修を分ける必要があるのか、また受講したもの以外の講演を聴きたかったとの意見があり、個人的には幼保と一般は区別した方が良いと思うが、今回はどちらかの選択がしづらい内容であったと感じた。

また、アンケートで印象に残った項目では、やはり70%以上の参加者がグループ討議と回答しているように、グループ討議のやり方および時間配分を検討し、今後も研修会へ参加したいと思ってもらうには更なる内容の充実が必要になる。

今回の研修会では、学校の教室や設備を提供いただき、色々調整いた吉田委員はじめ講師紹介、講演を担当した運営委員や事務の方々等、スタッフ全員の力を集結した結果が好評化につながったと確信した。